

アートミーツケア学会

「報告-アートミーツケアを実践する」

記述のてびき

(あくまで一例として)

2024年8月

オンラインジャーナル編集委員会

# このスライドの性質

- アートミーツケア学会の「報告-アートミーツケアを实践する」（以下、「報告」）に投稿される方に向けてつくられています。
- 自らの実践を言語化することによって、広く多くの方に実践の様子、手立て、意義を広く発信したいという想いをサポートするものです。
- ただし、あくまで一例としてご理解ください。こうすれば書けるというマニュアルというよりは、執筆中および執筆後にこのスライドを参照していただき、何か困っていることやチェックすべき事柄へのヒントとなればと思います。

# 「報告」の手順（の一例）①

A 導入（実践の経緯や目的の説明・報告全体の概要）



B 参照する事例・文献の紹介



C 自身の実践がこれまでの実践事例などの中で  
どのような位置をもつかの説明



次頁へ

# 「報告」の手順（の一例）②

D 実践事例の具体的な報告



E その考察（他者の考察も含み込みながら自身の考えを述べる）



F 全体を通じた総括 + 今後の見通し

# D 実践事例の具体的な報告の書き方の一例①

- 個人情報や属性の記述は、その実践の報告に特別に必要という場合を除いて、伏せた形で書く（研究倫理についてはすでに刊行されているガイドブックなどをご参照ください）。
- 日時やその進展などは、実践の記録に沿って、正確に具体的に書く。
- 実践の企画者・実施者の前もっての意図も記す。また実践においてその意図に沿わない結果が出て、その結果が意外性をもって面白いものであった場合、そもそもの意図を記述し、その結果との食い違いを示すことも大切である。
- その実践の経過を時系列で示す。その際、企画者・実施者からの見え方、また参加者や第三者からの見え方も区別して、記述する。

## D 実践事例の具体的な報告の書き方の一例②

- そこで起こっていた客観的な事象と、それぞれの担い手の主観的な情景については区別して書くことが、通例としては求められる。実際の出来事としては、なかなか区別するのは難しいケースもあるが、学術的にはまずは区別を前提に記述することが望ましい。また、区別を前提としない記述も存在するがそれには相当な技術が必要となるため、ここでは強調しない。
- あくまでそこで起こっていた客観的事象をまずはこのDでは書き、主観的な情景などはEの考察などで書いていく方が、全体の構成としてわかりやすくなる。
- また、このDでは、実践の経過を客観的に書いていく方がわかりやすい。この経過も主観的な形で時系列を組み替えて書くという手法もありうるが、上記と同様に相当な技術が必要となる。

# D 事例報告とE 考察の並置について

- 具体的な事例報告とそれについての考察の両方を含み、それぞれの内容が詳細であればあるほど、文章としての説得力を持ちます。
- 具体的な事例報告は、個人情報などに配慮しながらですが、第三者が読んでもわかるように詳細に書いてください。それによってリアリティが増し、生きた報告となります。

# 考察のもつ意義

- 一方、詳細であればあるほど、それがどれだけ一般性（他の事例と比べる際の共通性）をもつかについては弱くなってしまいます。それを補い、自らの事例を他のものと比較検討する地平を構成するために考察が必要になります。
- 本学会の「報告」では、「論文」とは異なり、新規で高度な理論をもった考察を求めません。あくまでの実践の内容や意義を報告してもらうことが主眼目です。ただし単なる事象の具体的な報告を連ねるだけでは、「報告」とはなり得ません。その当事者ではない方に向けて、事例をどう捉えたらよいか、また他の事例とどう異なるのか、何がその事例の特異性なのかを測る指標となるような考察が必要となります。

# 考察のもつ内容

- 考察では、1) 具体的な事例の報告のうち考察すべきポイントの記述と、2) 自分の意見・考察、および3) 参照する他人の意見・考察とを区別し、提示する必要があります。そのために、それらの三つを、きちんとそれぞれの文章で明示的に区別してください。
- 1) と2) があれば、「報告」として十分と思われるかもしれませんが、それでは2) を相対的に考えることにはなっていません。2) の自分の意見・考察の妥当性を、あくまで第三者の目線でも検証する必要があります。そのために、3) 参照する他人の意見・考察を並置し、自分の意見・考察の妥当性・独自性を確認しながら、報告を進めてください。

# 他者の考察を用いるためには

- その際には、引用の手法が必要になります。直接引用の場合は、「」で囲い、出典を必ず記入します。出典は、本学会の「論文」と同様に、一貫したルールで記入してください。一義的なルールはここでは示しませんが、これまで学ばれた何らかの学術的ルールに則り統一的に記述してください。
- また、他者の文章などを要約して引用する場合は、とくに注意が必要です。どこからどこまでが要約で、どこからどこまでが引用者の言葉であることを明示的に区別する工夫が必要です。もちろん、要約での他者の考察の記述でも、出典は明記します。

# 最後に

- ここまでつらつらとややこしいことを書いてきましたが、すべては、「報告」に投稿される方々がより多くの人々にそれぞれの実践を周知してもらうための工夫だにご理解ください。
- ここであげた書式などは、あくまで一事例です。重要なことは、投稿される方々がご自身・参加者の経験を、そこに参加していない方々にも細部までわかりやすく伝え、実践に込められた想いを報告を書くことによってより発展させていくことです。
- そのための一助になればと思い、このようなたびきを作りました。どうぞご利用いただければ幸いです。